2012年度第2回日本語教育巡回研修会
2013年3月13:00～17:00

# インターアクション能力を育てる会話教育

中井陽子
東京外国語大学　留学生日本語教育センター
ynakai@tufs.ac.jp
http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/ynakai/index.htm

## 本日の研修会の内容

**第1部** 13:00～14:45
- ・講義1：理論編
- ・講義2：実践編
- ・講義3：会話指導学習項目
- ・質疑応答

～・～14:45～15:00 休憩～・～

**第2部** 15:00～17:00
- ・グループワーク
- ・発表＆質疑応答

～17:00～17:30 個別質問受付～



## 本日の研修会の趣旨

（1）会話教育を中心とした
インターアクション能力育成のための
基本的な理論と、
具体的な実践例の紹介

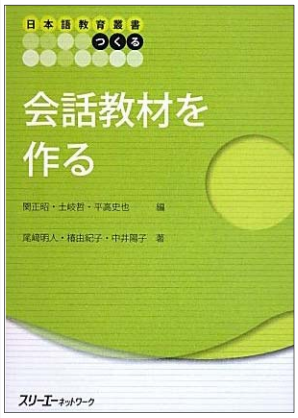
（2）ご自身の現場にあわせた
会話教育実践のデザイン



## 自己紹介と研究・教育活動の概要

- ・私の日本語教育・会話教育
- ・私の会話分析
- ・会話指導項目、会話教材の作成・使用
- ・私の会話教育の実践研究






尾崎明人・椿由紀子・
中井陽子（2010）
『日本語教育叢書「つくる」
会話教材を作る』
関正昭・土岐哲・平高史也（編
スリーエーネットワーク

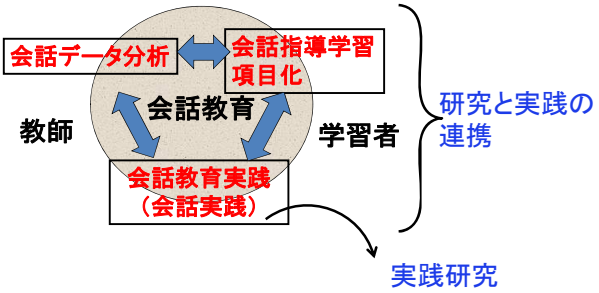
中井陽子（2012a）
『インターアクション能力を
育てる日本語の会話教育』
ひつじ書房

# 第1部
# 講義1：理論編

第2部のグループワークで、
どのような会話教育実践を
デザインしたいか考えながら
聞いてください！

7

## 1.「研究と実践の連携」の重要性




（中井2012a） 8

## 2. 会話と会話教育の基本的な概念

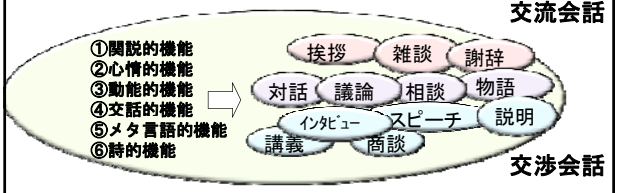
### ■会話とは？

音声言語やそれに付随する非言語を介して、二者以上の間で交わされるコミュニケーションの機能を持ったやり取り。

会話は、人と人が会って別れるまでが
ひとまとまりとなり、会話参加者同士の協力によって形成されるもの。

（中井2012a） 9

## ■会話の種類と機能




（Jakobson 1963）　（Brown and Yule 1983）

（中井2012a） 10

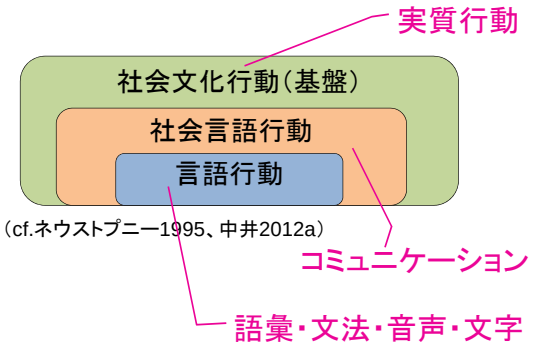
### ■メタメッセージとは？（cf. Tannen 1986）

発話のメッセージに付随して用いられる
トーンやポーズ、動作、表情などの
言語的・非言語的なシグナルや、
発話自体で二次的に伝達・解釈されるもので、
会話参加者の態度やお互いの関係について
付随的に伝えられるもの

例）隣接ペアでは？（挨拶ー挨拶、トーン、表情）
フィラー
評価的発話

（中井2012a） 11

## ■インターアクション能力とは？




（cf.ネウストプニー1995、中井2012a）

12

## ■言語行動とは？　（ネウストプニー1995）

1.語彙

2.文法

3.音声

4.文字

13

## ■社会言語行動とは？(ネウストプニー1995)

1.点火：　会話をどう開始・継続・終了するか

2.セッティング：いつ、どこで会話するか

3.参加者：　誰と誰が会話するか

4.バラエティ：　言葉の調子、文体、方言

5.内容：　何を伝えるか

14

## ■社会言語行動とは？(ネウストプニー1995)

6.形：　内容項目の順序

7.媒体：メッセージをどう具体化するか
（音声、文章、身ぶり、表情、笑い）

8.操作：会話をどう評価し、修正するか
（単語が分からない、理解できない時）

9.運用：各ストラテジー、ルールを必要な瞬間に同時に活動させる

15

## ■社会文化行動とは？(ネウストプニー1995)

例えば・・・

・食べる・物を作るなどの行動

・政治・経済、思考など

・態度、意識、人格、魅力

16

## ■インターアクション能力とは？

人と関わりを持つ文脈の中で、

相手と協力して、

瞬間瞬間に生成されるインターアクションを調整しつつ、

**言語行動、社会言語行動、社会文化行動**

が適切に行える能力

**（中井2012a)**

17

## ☆インターアクション能力の育成

- 談話能力
- メタ認知力
- 自己分析力
- 自己改善力
- 調整能力
- 協働
- 創造力
- 自己表現力
- 批判的思考力・・・

18

音声言語や非言語をリソースとして
動態的に調整して用いつつ、
会話相手と協力して会話空間を作って
参加していくためのインターアクション行動が
適切に行えるようなインターアクション能力
（言語能力、社会言語能力、社会文化能力）

（中井2012a)

19

## 会話教育の目指すもの

学習者が日本語を用いて様々な社会場面に
参加し、その中で円滑なインターアクションが
行える会話能力の育成

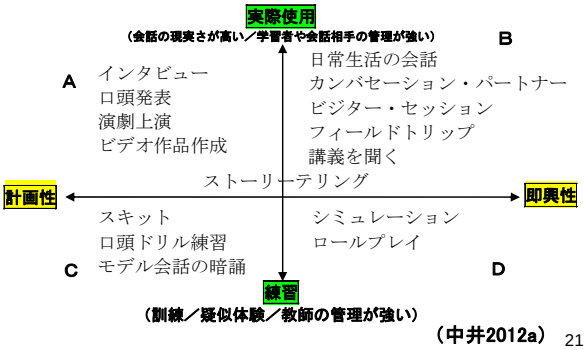
＊言語・非言語的な会話のリソースを
動態的に調整しつつ、会話参加者同士が共に
協力し合いながら会話に積極的に参加する。

＊親しみのメタメッセージを互いに伝達・解
読することで、楽しい会話空間を共有して、
友好な関係を作っていく。 （中井2012a)

20

## 3. 会話授業の設計

■実際使用の度合いと計画性・即興性の関係




（中井2012a） 21

## ■FACTとACTの二分法

Jorden and Walton（1987）、Jorden（1987）
Christensen and Noda（2002）、中井（2003、2004）

**FACT（宣言的知識declarative knowledge）**

＊語彙や文法等の言語についての知識を扱う。具体的には、言語・非言語の社会的文化的側面や、語彙、文法について説明し、ディスカッションするような授業のことである。

**ACT（手続き的知識 procedural knowledge）**

＊FACTの授業で得た知識を、目標言語文化のインターアクションの談話の中で実際に何度も繰り返して運用し、練習する機会を最大限に与え、言語を実際に使って何ができるかという言語運用能力を身に付けさせることを目標にする。

## ■メタ認知力

日本語学習者の日本留学・映像視聴など

＊日本語の会話に自ら参加
＊他者の会話を傍聴

⇩

その会話を客観的に観察・分析する視点

⇩

多くのことが吸収できる

23

＊Oxford (1990):
言語学習ストラテジー
記憶、認知、補償、メタ認知、情意、社会的

自己モニターをする(self-monitoring)
自己評価をする(self-evaluating)

⇩

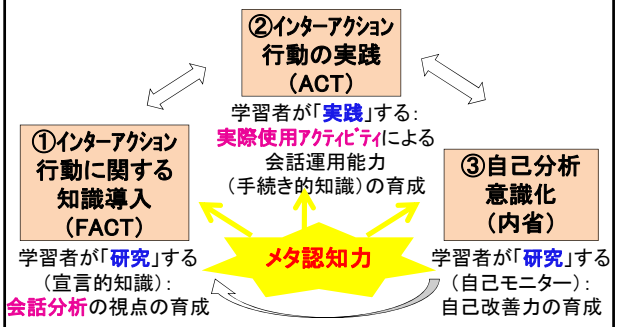
＊ネウストプニー（1999）:
文法能力、社会言語能力、社会文化能力 の習得

⇧ ⇧ ⇧

＊ネウストプニー (1995):
実際使用のアクティビティー
例)イマーション・プログラム

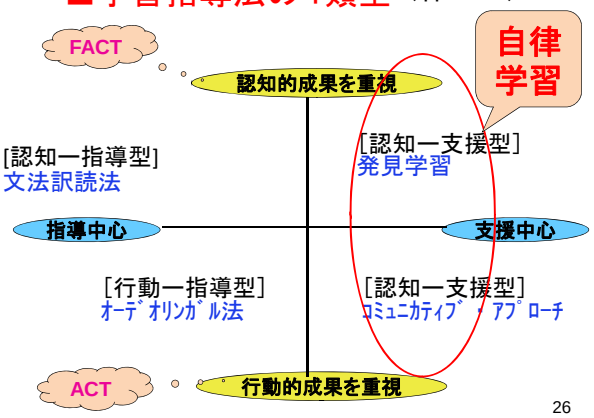
24

## ■会話の授業の基本的な3段構成
（メタ認知力と運用力の育成のため）




25

## ■学習指導法の4類型（森2002）




26

## 学習指導法の4類型の活用法

◆初級レベルの場合は、「指導中心」で教師の手助けを多くし、レベルが上がるにつれて、「支援中心」で学習者の自律性を高める。

◆コースのはじめは、「指導中心」で、コースが進むにつれ、「支援中心」に移行する。

◆学習者の個性やビリーフ、ニーズなども考慮する。

27

## 第1部
## 講義2：実践編

**その1** コミュニケーションの6つの機能別教材例
初級後半～中級 （中井2010）

**その2** 会話クラス『日本語会話2』
初級後半～中級 （中井2010, 2012a）

**その3** ビデオ作品作成プロジェクト
中上級 （中井2012a）

**その4** 映画で学ぶ日本語
上級 （中井2012b）

28

## その1 コミュニケーションの6つの機能別教材例

1.事実関係
2.心の動き
3.働きかける
4.交流
5.メタ言語
6.言葉で遊ぶ

（中井2010）

29

## コミュニケーションの6つの機能別教材例

1.事実関係：
「①面白い所・物」「②写真・宝物」
2.心の動き：
「③コメント」
3.働きかける：
「④Useful Phrases」
「⑩⑪許可」「⑫申し出」
「⑬⑭依頼」「⑮⑯誘う」

30

## コミュニケーションの6つの機能別教材例

4.交流:

「④Useful Phrases」

「⑤ボランティアの友達と話す」

5.メタ言語:

「⑥発表の仕方」

「⑦発表会の司会」

「⑧文と文をつなぐ」

31

## コミュニケーションの6つの機能別教材例

6.言葉で遊ぶ:

「⑨好きな色ゲーム」

「⑩Counting Game」

「⑪⑫⑬⑭⑮歌」

32

## その2 会話クラス『日本語会話2』授業概要

(中井2012a)

期間：2005年9月～2008年1月（合計5学期間）
（１学期、週１回90分、13回程度）

機関：都内某私立大学日本語センター

レベル：初級前半～後半

学習者：欧米系、アジア系などの
学部・大学院留学生・別科生 (7～20名)

授業ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ：母語話者の学部・院生 (3～20名)

授業目標：基本的な語彙や文法を使って、
会話に積極的に参加できるようになること

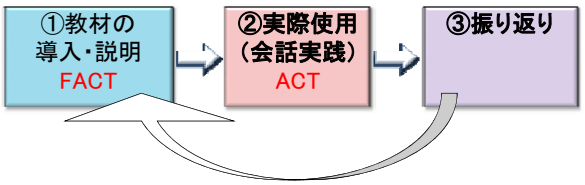
33

## 実践で考慮に入れた分析・概念

1) 母語話者と非母語話者による会話の特徴・問題点
2) 会話参加者の役割の概念（聞き手／話し手）と双方による協力
3) 談話レベルでの会話指導学習項目
例：聞き返し、あいづち、評価的発話、フィラー
メタ言語表現、質問表現、司会者の役割
4) メタ認知を促すためのﾌｫﾛｰｱｯﾌﾟ・ｲﾝﾀﾋﾞｭｰの手法
5) FACT-ACTの二分法
6) ｲﾝﾀｰｱｸｼｮﾝ能力を用いる実際使用のｱｸﾃｨﾋﾞﾃｨの機会
7) 楽しい会話による友好な関係作りとﾈｯﾄﾜｰｸの拡大
8) 母語話者と非母語話者の「歩み寄りの姿勢」の育成

34

## 初級後半の会話授業の例




**取り上げる談話技能:**
聞き返し、あいづち、評価的発話、質問表現、フィラー、メタ言語表現、終助詞、「～んです」、話題転換　など

（cf. 中井2012a）

35

## 会話授業で取り上げた談話技能

A.あいづち、コメント、聞き返し
「⑲聞き返しのしかた」「⑳新しい語彙リスト」
「21いい聞き手になるために」
「22あいづちの練習」

B.質問表現
「23会話のタイプ」「25質問のしかた」

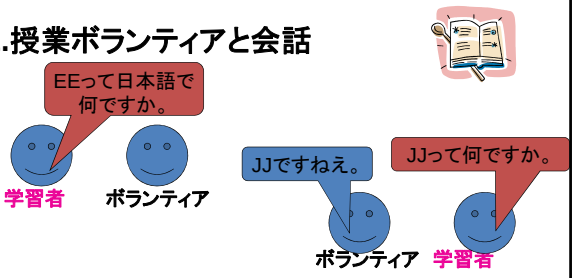
C.コメント発話
「28コメント」

36

## A-1.聞き返し

1. 会話教材で整理 「⑲聞き返しのしかた」

2.授業ボランティアと会話



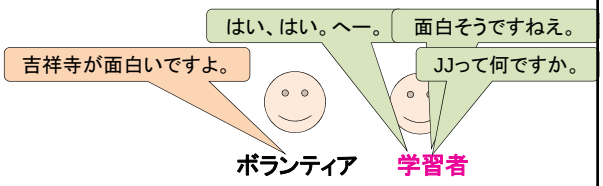

3. 「⑳新しい語彙リスト」記入

37

## A-2.あいづち、コメント

1.プリント教材で整理 「21いい聞き手になるため」「22あいづちの練習」

2. ボランティアに「東京・日本の面白い所・もの」についてインタビュー

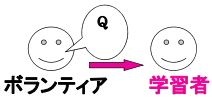



3.タスクシートに記入していく。 「①面白い所・物」
4.クラスで口頭発表

38

## B.質問表現

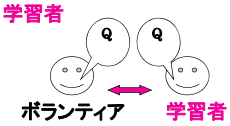
1.ボランティアが学習者に質問する。




「23会話のタイプ」「25質問のしかた」

2.学習者がボランティアに質問する。

3.お互いに質問し合う。

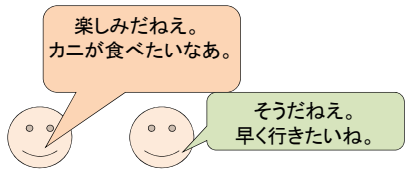



39

## C.コメント(事前)

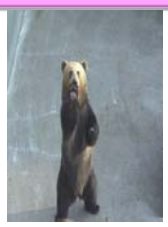
「28コメント」

北海道旅行の事前

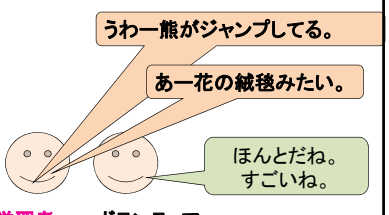



40

## C.コメント(事中)



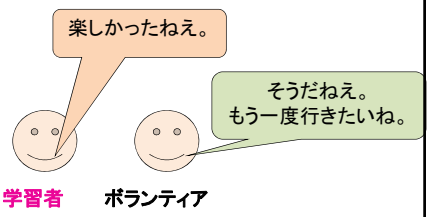
北海道旅行の事中




41

## C.コメント(事後)

北海道旅行の事後




42

## 学習者のコメント分析

**1.授業の「談話技能」の教材について**

＊「会話のスキルを練習する機会を与えてもらった。」
(学習者A)
＊「いつもの教科書にはないことが学べた。」
(学習者B)
＊「クラスの後で復習できた。」(学習者C)

⇒ 学習者にとって、初めて意識的に練習する談話技能が多かったようである。

43

## 学習者のコメント分析

**1.「実際使用」**

＊「ボランティアと一緒に話すのはとても役立ちます。新しい言葉を習いました。」(学習者D)
＊「ボランティアと自由な話題をおしゃべりできて、自分の聞くと話す能力はだんだんうまくなってきます。」(学習者E)
＊「どんどん日本人と一緒に日本語で話したら、自信になります。とてもいい経験と機会だと思います。日本語上手になりました。」(学習者F)
＊「ボランティアと一緒にたくさんしゃべることは楽しかった。」(学習者G)

44

⇒ コミュニケーションに焦点をおいて会話を楽しむ。

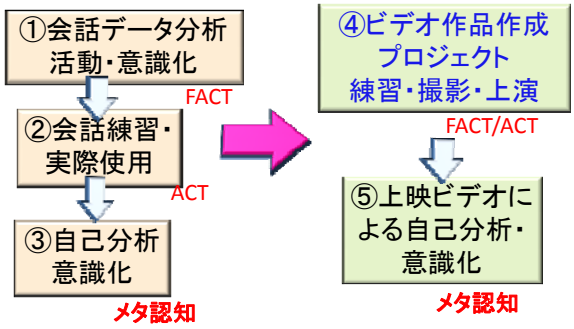
## その3 ビデオ作品作成プロジェクト授業概要

(中井2012a)

期間： 2007年9月～12月
(1日100分、週１回、計15回)
機関：地方某公立大学の日本語クラス
レベル：中上級
学習者：アジア、欧米などの留学生( 9名)
授業目標：1) 日本語の会話を分析する視点を身につける
2) プロジェクトワークを通じて、日本語の会話能力を向上させる

45

## ビデオ作品作成プロジェクト授業構成




46

## 教室活動と学習指導法の４類型

「指導中心」→「支援中心」

「認知的成果を重視」→「行動的成果を重視」

1)会話分析(認知的成果重視、指導中心・支援中心)

2)会話練習(行動的成果重視、指導中心・支援中心)

3)ビデオ作品作成(行動的成果重視、支援中心)

47

**①会話分析活動・意識化（FACT）**
**②実際使用（ACT）**
③自己分析意識化（内省）

＊録画会話ビデオ、テレビ番組を用いて会話分析

トークショー：『ごきげんよう』
おしゃべり： 『グータンヌーボ』
旅行番組： 『はにかみ』
デートの会話：『あいのり』
バラエティーショー：『ダウンタウンDX』
など

48

## ①会話分析活動・意識化（FACT）
## ②実際使用（ACT）
## ③自己分析意識化（内省）

| | |
|---|---|
| 1. 談話技能の分析と練習 | ・聞き手の役割<br>（聞き返し、あいづち、評価的発話、繰り返し）<br>・話し手の役割<br>（文と文のつなげ方、フィラー、メタ言語表現、説明）<br>・質問の仕方、話題の換え方、スピーチレベルシフト |
| 2. 会話の構造の分析と練習 | ・ストーリーテリングの仕方、自由会話の仕方<br>・会話のフロアー<br>(ディスカッション、ディベートの仕方)<br>・デートの時の会話、旅行の時の会話<br>(現場性の有る発話)<br>・番組の進行、司会者のテクニック |

## ④ビデオプロジェクト練習・撮影・上演（ACT）
## ⑤上演ビデオによる自己分析・意識化（内省）

1. **自分達の番組の作成計画**:
   テレビ番組の会話を分析・練習してきたことを応用する。

2. **日本のテレビ番組の分析**:
   自分達の作品と似ている番組を分析する。
   例：司会者の言葉、番組の構成、出演者のコメントの仕方　など

3. **番組作り・演出**:
   観客を意識して

50

## ④ビデオプロジェクト練習・撮影・上演（ACT）
## ⑤上演ビデオによる自己分析・意識化（内省）

4. **撮影する**:
   日本語の実際使用
   （例：インタビュー、ドラマのパロディー、料理対決など）

5. **上映する・司会進行する**:
   実際使用、達成感

6. **振り返る**:
   自己評価（メタ認知）、他者評価（分析）で、今後の自律学習につなげていく。

51

●**インタビュー番組**:**『あなたが選ぶ白馬の王子』**

**司会者と王子様**:言語的アクティビティ中心
（ハイテンションの挨拶と番組紹介、ほめ、質問表現、あいづち、コメント、テロップ）

52

**学習者のビデオ作品の発話例**
**オープニングと理想の王子Aへのインタビューシーン**

＊**観客への挨拶と番組紹介**
1X：さー、恋の季節をお迎えのシンデレラの皆様、お待たせいたしました。「あなたが選ぶ白馬の王子」のコーナーのXです。いよいよ今日の白馬の王子が登場します。玉の輿に乗りたいなら、この番組は絶好のチャンスです！

＊**王子Aの紹介**
2X：では、まず、はじめに、中国からの王子をご紹介いたします。化粧のことに詳しく知っていて、女性の気持ちがよく分かって、家事も料理もできる、Aさんでーす。

＊**挨拶**
3X：こんにちは。
4A：こんにちは。

53

＊**王子Aへのほめと質問**
5X：えっとー、ＡＩＵで、化粧のことについて一番詳しく知っている人はAさんとよく言われているんだけどー。　**誉め**
6A：あっ、本当ですか？ありがとうございます。
7X：{笑い}よかったねー。女性にとって化粧が大切だから、Aさんときっといろいろな話ができると思いますよー。　**コメント**
8A：あ、そうですか。実は、化粧についてあまり詳しく知らないんですけどもー、スキンケアなら、少しくらい知っている//ると思いますけど。
9X：　えー、本当？それだけで、魅力だよ！**あいづち、コメント**
10A：まあ、その他に、女性の心を見通す力が持っていると　よく言われてますよ。
11X：えー、すごーい、すごーい。でも、えっとー、料理も家事もできそうだけど、　**言いさし質問表現**

54

## ビデオ作品作成プロジェクト　まとめ

**教室活動での映像の利点・役割:**

＊教室の外の場面（言語的/実質的アクティビティ）や、話者をクラスに持ちこみ、客観的に分析したり発話練習したりできる

＊学習者達自身がビデオ映像の中に入り、協働で創造し、見る主体から見られる主体へ移行できる。

＊録画した自身の会話を客観的に分析できる。

＊作成した作品が、次の学生の参考となる。

55

## その4 映画と演劇を融合させた授業概要

（中井2012b）

期間：2011年1月～3月
（1日100分、週2回、計15回）

機関：秋田の某大学の日本語選択クラス

レベル：中上級～上級

学習者：アジア、欧米などの留学生（ 10名）

授業目標：四技能の
インターアクション能力の育成
（言語能力，社会言語能力，社会文化能力）

56

インターアクション能力育成

↓

受容した情報の分析・解釈

↓

自身の表現として　産出するプロセスの経験

57

## 具体的なコース目標

日本の映画視聴と演劇を通して

(1) 語彙・表現，内容などを理解する能力

(2) 言語的・非言語的，文化的・社会的な情報について口頭や文章で伝える能力

(3) 映像を分析してディスカッションする能力

(4) 豊かな言語的・非言語的な表現力を育成すること

58

## 5つの映画の視聴

1.『となりのトトロ』

2.『いま会いにゆきます』

3.『カイジ』

4.『デスノート（アニメ）』

5.『釣りバカ日誌15秋田編』

59

## 映画視聴の授業活動

**コース前半**

5つの映画の視聴 → 4技能の総合的な授業活動
- 言語行動
- 社会言語行動
- 社会文化行動

**インターアクション能力の育成**
**（言語能力，社会言語能力，社会文化能力）**

60

## ●言語能力（音声・語彙・文法）の育成の活動

・ディクテーション
・アフレコ
・単語クイズ

61

## ●社会言語能力（談話レベルの話題展開等）の育成の活動

・スクリプト読解
・読み合わせ
・ストーリーテリング『いま会いにゆきます』
・単語クイズ（ストーリー説明）

62

## ●社会文化能力（社会文化的な知識と技術）育成の活動

・内容把握問題・予測
・関連資料読解
・映画のテーマのディスカッション
・意見ワークシート記入
・映画の分析発表とそのフィードバック

➡ **社会文化能力**
**映画のテーマを分析・考察し，解釈・意見を伝え合う能力の育成**

63

## ●社会文化能力

『デスノート』の意見ワークシート：

・現代社会の犯罪について
・法律や宗教の必要性
・デスノートで人間が人間を裁くこと
・自分がデスノートを拾ったら？
・どうしたら犯罪が減るか
・映画のメッセージは何か

64

## ●社会文化能力

発表の内容

(1)『トトロ』の日本文化
(2)『カイジ』の粗筋とテーマ分析
(3) 日本映画の粗筋とテーマの分析

映画のテーマ分析：
文化・生活や，愛や友情，正義と犯罪，人間の欲，生と死，成長，勇気，信頼など

65

## 演劇上演の授業活動

コース前半：映画作品
テーマ
状況設定
登場人物
台詞

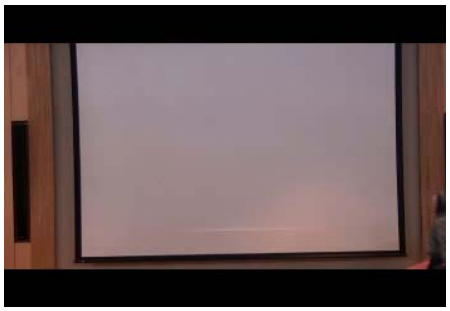
➡

コース後半：演劇上演
シナリオ作成
台詞練習
演出
小道具・衣装
音響
背景用PPT作成
リハーサル

66

●『トトロノート』 オープニング

（トトロがデスノートを人間界に落とし、ライトが拾う。負け組と呼ばれる人達を、ネコバスに呼び、デスノートで殺していき、いい世の中を作ろうとする。）



67

●『トトロノート』ラストシーン

（トトロが人間界に落としたデスノートをめぐって、猫バスの中で、ライトとLが対決する。その結末。）

68

## 学習者によるコースの感想

### 1. 言語能力

●単語/文法/発音を扱った活動

・スクリプトでしっかり学習したら，案外知らない単語があって，勉強になった。

・演劇のセリフを練習しながら，映画を思い出して勉強でき，復習になった。

・発表評価シートで，先生が発音や文法など，いろいろ指摘してくださった。

69

### 1. 言語能力

●アフレコ

・「デスノート」のアフレコのために，映画を何度も何度も見直した。

・他のグループの色々な感情の表し方を見るのが面白かった。

●ディクテーション

・ディクテーションで穴埋めした単語は，印象に残りやすい。

70

### 2. 社会言語能力

●単語クイズ（ストーリー説明）/ストーリーテリング

・単語が覚えやすくなる。

・相手にストーリーを説明して相手が分かってくれると嬉しい。

●日本語の表現

・映画で，感情の表し方など，日本人っぽいリアクションや言葉が学べた。

71

### 3. 社会文化能力

●意見ワークシート

・ワークシートを書く時に，本当に深く考えて，自身の考えを改めて見つめ直せた。特に，先生のコメントで，自身の意見をもっと深く考え直せた。

・ディスカッションでは，考える時間がなく，十分に言いたいことが言えなかったが，ワークシートの宿題では，時間をかけて自分の意見を考えて十分言えた。

72

## 3. 社会文化能力

**●映画分析/ディスカッション**

・内容理解が深まった。

・みなの考えが理解できた。

・自分一人でただ見るだけより，分析したり，資料を読んだり，先生に教えてもらったりして，もっと深い意味が分かった。

・勉強のことだけじゃなくて人生のことも色々教えて頂いた。

73

## 3. 社会文化能力

**●映画分析の発表**

・ネットで調べたら，映画監督がもっと深いメッセージを述べていたので，それを自分の言葉で発表するのが難しかった。

・新たな視点を得ることができた。

・先生から映画の分析の深さなどのアドバイスがあり，勉強になった。

74

## 3. 社会文化能力

**●演劇上演**

・自身と全く異なる人格が演じられて，今後の自身の幅が広げられた。

・シナリオを作っている時，どんな台詞を話したいか考えるのが面白かった。

・自分の演じる役でどんな日本語やしぐさを使ったらいいか，他のアニメで研究したり，日本人の友だちに聞いたりした。

75

## 3. 社会文化能力

**●演劇上演**

・セリフを作りながらライトの気持ちや行動を色々考えた。

・見たシーンで印象に残った台詞などを入れた。例）ポケットに手を入れる

・グループで仲間意識が高められる。

・道具を作ったり，表現や変装の仕方などをみんなで話し合って考えた。

76

## まとめ

・様々な活動において
「学ぶ対象」「自己」「仲間の学習者」
「教師」「観客」などと
インターアクションを実際に行うことで，
多角的にインターアクション能力が
育成される。

・映画視聴で解釈したメッセージを，
演劇で自身の言語と身体で表現する。

➡ **映画の世界を内在化させ，自身の考えや表現の幅を広げる。**

77

## 第1部
## 講義3：会話指導学習項目

**配布資料の【資料1】をご覧ください**

（中井2012a）

78

## 会話指導学習項目の枠組み

（ネウストプニー1995）

| | |
|---|---|
| 言語行動 | 1.語彙 |
| | 2.文法 |
| | 3.音声 |
| 社会言語行動 | 1.点火 |
| | 2.ｾｯﾃｨﾝｸﾞ |
| | 3.参加者 |
| | 4.バラエティ |
| | 5.内容 |
| | 6.形 |
| | 7.媒体 |
| | 8.操作 |
| | 9.運用 |
| 社会文化行動 | 1.知識取得 |
| | 2.行動実行 |

会話データ分析の分析項目にもなる！

79

## ■談話技能の指導項目の取り上げ方

・必要なものを教師と学習者で取捨選択
⇒網羅的に教えなくてよい。

・会話の場所・背景、会話相手との相互行為の中で、動態的に変わることを意識させる
⇒雛形的なものの暗記ではない。
⇒メタ認知力、調整能力の育成が重要。

・各教師が会話指導項目の全体像を掴んで共有し、計画性を持って指導する
⇒フィードバックの観点が増える。
⇒教師間の引継ぎがしやすくなる。

80

## 参考文献


•尾崎明人・椿由紀子・中井陽子（著）（2010）『日本語教育叢書「つく る」　会話教材を作る』関正昭・土岐哲・平高史也（編）スリーエーネットワーク
•中井陽子（2003）「談話能力の向上を目指した会話教育―ビジターセッションを 取り入れた授業の実践報告」『講座日本語教育』第39分冊 pp.79-100 早稲田大学日本語研究教育センター
•中井陽子（2004）「談話能力の向上を目指した総合的授業―会話分析活動と演劇プロジェクトを取り入れた授業を例に」『小出記念日本語教育研究会論文集』第12号 pp.79-95 小出記念日本語教育研究会
•中井陽子（2010）「第2章作って使う第4節会話授業のさまざまな可能性を考える」尾崎明人・椿由紀子・中井陽子（著）『日本語教育叢書「つくる」会話教材を作る』関正昭・土岐哲・平高史也（編）pp.135-188スリーエーネットワーク


81


•中井陽子(2012a)『インターアクション能力を育てる日本語の会話教育』ひつじ書房
•中井陽子(2012b)「映画視聴と演劇上演を融合させた授業の分析―インターア クション能力育成を目指して―」『IAPLオンラインジャーナル』創刊号 国際表現言語学会
http://web.uvic.ca/~hnserc/IAPL/journal/J2012/01nakai.pdf
•ネウストプニー、J.V.(1995)『新しい日本語教育のために』大修館書店
•ネウストプニー、J.V.(1999)「第1章言語学習と学習ストラテジー」宮崎里司・ネウストプニー、J.V.（編）『日本語教育と日本語学習ー学習ストラテジー論にむけてー』pp.3-21くろしお出版
•森敏昭(2002)「10章　学習指導の心理学エッセンス」(編)海保博之・柏崎秀子『日本語教育のための心理学』pp.153-176明光社


82


•Brown, Gillian and George Yule. 1983. Discourse Analysis. Cambridge: Cambridge University Press.
•Christensen, Mattthew B. and Mari Noda. 2002. A performance-based pedagogy for communicating in cultures: Training teachers for East Asian languages. The Ohio State University: National East Asian Languages Resource Center.
•Jakobson, Roman. 1963. Essais de linguistique générale.（川本茂雄・田村すゞ子・村崎恭子・長嶋善郎・中野直子1973（訳）『一般言語学』みすず書房）
•Jorden, Eleanor. 1987. The target-native and the base-native: Making the team. Journal of the association of teachers of Japanese 21.1: 7-14. Jorden, Eleanor and A. Ronald Walton. 1987. Truly foreign languages: Instructional challenges. The annals of the American academy of political and social science, ed. by Richard D. Lambert and Alan W. Heston. 490:110-124.


83


•Jorden, Eleanor and A. Ronald Walton. 1987. Truly foreign languages: Instructional challenges. The annals of the American academy of political and social science, ed. by Richard D. Lambert and Alan W. Heston. 490:110-124.
•Oxford, Rebecca L. 1990. Language learning strategies: What every teacher should know. Boston: Heinle & Heinle.（宍戸通庸・伴紀子1994（訳）『言語学習ストラテジー　外国語教師が知っておかなければならないこと』凡人社）
•Tannen, Deborah. 1986. That's not what I meant!: How conversational style makes or breaks relationship. New York: Ballantine Books.


84